

平成30年度 標準的学力調査の結果（HP版）

学校支援課

平成31年1月に実施した標準的学力調査（東京書籍版CRT）の結果をお知らせします。
（数値は平均正答率％）

<中学校2年生理科>

年度	新潟市	全国	全国との差	標準スコア
平成30年度	56.4	57.4	-1.0	49.6
平成29年度	54.2	55.4	-1.2	49.4
平成28年度	55.8	55.5	+0.3	50.1

<中学校2年生英語>

年度	新潟市	全国	全国との差	標準スコア
平成30年度	55.9	55.5	+0.4	50.2
平成29年度	61.0	62.1	-1.1	49.5
平成28年度	58.6	53.2	+5.4	52.4

中学校理科

【今年度の結果について】

標準スコアは、49.6（昨年度49.4）と全国とほぼ同程度だった。

種別にみると「基礎」は全国を下回る-1.1（昨年度-0.8）であったが、「活用」は全国平均を上回る+0.9（昨年度+0.3）であった。

領域別に見ると、エネルギーの領域（電流の性質）は-0.9（昨年度+0.1）、粒子の領域（化学変化と原子・分子）は-0.9（昨年度-1.8）と下回った。また、生命の領域（動物の世界）は+0.5（昨年度+0.4）上回った。なお、地球の領域は、まだ未履修のため調査対象より除外してある。

今回の調査から、粒子やエネルギーといった微視的、抽象的な事物や現象を扱う領域が苦手であることが明らかになった。今後は、具体物を基にしながら思考、判断、表現できるように、モデルやICTを活用した授業となるよう、さらに工夫・改善することが必要である。

◆内容ごとの状況（中学校・理科）

＜○…全国平均を上回った主な問題 ●…全国平均を下回った主な問題＞

- 銅の酸化を，化学反応式で表すことができる。
- アンモニアを吸着するためにビーカーにぬれたろ紙をかぶせることを指摘できる。
- 化合物が2種類以上に分かれる化学変化を，「分解」ということを理解している。
- 実験の考察を検討し，改善できる。
- 動物の細胞でも植物の細胞でも見られるつくりを理解している。
- 対照実験に用いる実験条件を考えることができる。
- 実験の結果から，だ液のはたらきについて考察することができる。
- だ液にふくまれているデンプンを分解する酵素を，「アミラーゼ」ということを理解している。
- 中生代のころの生物のようすを考えることができる。
- シラーペトン・イサジイが食べていたものを考えるために，化石のあごの骨格や歯に着目すればいいことを説明できる。
- 電力と電圧から，流れる電流の大きさを求めることができる。
- 消費電力の小さいLED電球を使うことで節約できる電力量を求めることができる。

【今後の対応について】

- ◎ 知識を発信したり，構造化したりする場を設定する（基礎を定着させるために）。基礎事項については，そのしくみや特徴について，個々にまとめさせたり，章や単元末の中で習得した既習事項を構造化させたりする活動を位置付ける。
- ◎ 科学的に探究する過程を大切にした授業を心掛ける（活用を伸ばすために）。自然事象から問いを見いだし，見通しをもって課題や仮説を設定し，観察・実験などを行い，根拠に基づく結論を導き出す過程を大切にした授業（単元型）を心掛け，科学的に探究するために必要な資質・能力を育めるようにする。
- ◎ 理科を学ぶ意義や喜びを実感できる授業を心掛ける（学ぶ意欲を高めるために）。授業で習得した知識や技能が生活場面で利用されている事象のしくみを説明させたり，身近な自然事象から問題を見いだし，その解決に向けて習得した知識・技能を活用して解決させたりするような学習場面を組織する。

中学校英語

【今年度の結果について】

新潟市全体の状況は，基礎・活用ともに全国平均をやや上回った。

種別にみると「基礎」が全国平均より0.1ポイント，「活用」が1.1ポイント上回った。「活用」の中でも，「思考・判断力」においては，全国平均より2.6ポイント上回ったものの，「表現力」では0.4ポイント下回った。

領域別では，「聞くこと」の領域で-1.1（昨年度-1.3），「読むこと」の領域で+3.0（昨年度+0.3），「書くこと」の領域で-0.8ポイント（昨年度-1.7）だった。

昨年まで課題のあった「読むこと」については，全国平均を3.0ポイント上回

り大きく改善が見られた。しかしながら、「聞くこと」については、依然課題が残っている。

◆内容ごとの状況（中学校・英語）

○…「目標値」と「全国正答率」の両方を上回った問題

●…「目標値」と「全国正答率」の両方を下回った問題

【聞くこと】

○ 絵を適切に表している英文を聞き取ることができる。（人物とその人物ができること）

○ 絵を適切に表している英文を聞き取ることができる。（動詞と場所）

○ 英文の要点を聞き取ることができる。（ピアノをひく人物）

● 対話の内容を聞き取り、適切に応答することができる。（いっしょにダンスをすることをたずねられて）

● 英文の要点を聞き取ることができる（時）

● 対話の内容を聞き取り、資料を基に英語で答えることができる。

【読むこと】

○ 語形・語法を理解することができる（look＋形容詞）

○ 語形・語法を理解することができる（形容詞的用法の不定詞）

○ 英文と資料の情報・条件をもとに、適切な曜日を判断することができる。

○ 対話の流れと資料から、適切な教科と職業を判断することができる。

○ 長文の概要を理解することができる。

● 語形・語法を理解することができる（whoseで始まる疑問文）

● 語形・語法を理解することができる（過去進行形）

【書くこと】

○ 単語を正しく書くことができる（冬）

○ 英文を正しい語順で書くことができる（There is[are]～.の疑問文）

○ 英文を正しい語順で書くことができる（動詞の目的語となる動名詞）

● 単語を正しく書くことができる（たずねる）

● 英文を正しい語順で書くことができる（<what＋名詞>で始まる疑問文）

● 対話の流れに合った英文を書くことができる。（どこに行ったのかとたずねる文を書く）

● 自分の学校にあるものや学校の特色について、まとまった内容で説明する文を書き表すことができる。

【今後の対応について】

◎「聞くこと」の力を育成するために

「聞くこと」はここ数年にわたって、当市の課題となっている。今回もこの傾向は変わらず、全国平均正答率を1，1ポイント下回り、目標値を3，9ポイントも下回った。

「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、4技能5領域の指導において、CAN-DOリストの活用が求められている。「聞くこと」に係るCAN-DOリストに、「公共施設における簡単なアナウンスを聞いて、大まかな情報を聞き

取ることができる」と設定した場合、トピックや大まかな語数については想定されていても、英語が読まれる速さまで想定していない場合が多い。

指導に際しては、ALT を活用するなどし、最初はできるだけナチュラルスピードで音読し、生徒の実態に応じて、2回目以降は、発音するスピードを調整するなどの工夫をもっと意図的に行っていく必要がある。

また、新学習指導要領においては、授業は基本的に英語で行うことになっている。英語教育実施状況調査の過去の結果から、新潟市の英語教員の授業における英語使用率は、全国平均よりも高い。

◎複数の技能を用いる統合的な言語活動の設定

本調査においては、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の力を、それぞれ単独で測る問題が設定されている。しかしながら、現実のコミュニケーション場面においては、「聞くこと」を基に、「話すこと」や「書くこと」を行うことが多い。本調査においても、「対話の内容を聞き取り、適切に応答することができる」ことを測る問題がそれに当たるが、応答の部分は選択肢から選ぶ問題になっている。来年度実施される全国学力・学習状況調査に向けた、本年度の予備調査の問題においても、聞いたり読んだりしたことを基に、話したり、書いたりするといった、複数の技能が測られる技能統合型の問題が出題されていた。

このように、「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、複数の技能が必要になる言語活動を意図的に設定し、生徒の英語運用能力を総合的に高めていく必要がある。